

## 2021年度公開講座(前期)は、本学教員が講師となり、オンライン(YouTubeでの録画配信)にて開催いたします。

※配信開始日より8月末日までで視聴いただけます。  
是非お申込みいただき、ご視聴ください。

視聴申込期間 **5/31(月)～7/28(水)**

### 【申込方法】

右記コードを読み取り、  
お申込フォームよりご入力ください。

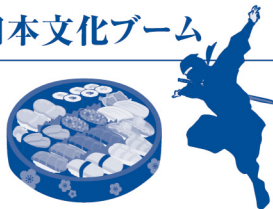


本学公式サイト(<https://www.shoin.ac.jp/>)からもお申込みいただけます。  
本学公式サイトのトップページ→社会貢献→公開講座へアクセスしてください。  
お問合わせ先(神戸松蔭女子学院大学 企画課): [kikaku@shoin.ac.jp](mailto:kikaku@shoin.ac.jp)

6月18日(金)

## グローバル世界における日本文化ブーム

近年、海外における日本文化に対する関心が高まり、日本文化に関わる様々な事業が展開されています。この講義では、日本文化の人気を「ブーム」という観点から取り上げ、その特徴と背景にある原動力についてお話します。



Vicky A. Richings (文学部 英語学科 講師)

◆専門領域: 英語学科において、リーディング、翻訳トレーニング、国際プロジェクト演習などを担当。専門は、外国語教育、日本文学、日本文化です。主に外国語教育における文学教材について研究しています。

7月2日(金)

## 神戸の洋食の系譜

1868年の開港によって、都市の性格が決定づけられた神戸。明治以来に激変した「食文化」においても、神戸は他都市とは違う独特の進化の仕方が見られます。「オリエンタルホテル」と「外国航路の船舶由来」の2つの系譜を軸に、外国人のための食が、準日本料理の「洋食」としていかに定着したのか、また近年のグルメアイテムとして人気沸騰の「神戸の洋食」に至った足跡を著書「神戸と洋食」(神戸新聞総合出版センター/2019)からひもときます。

江 弘毅 (人間科学部 都市生活学科 教授)

◆専門領域: 都市文化論。大学では、街とメディア、地域社会、食文化などを担当。食に関しての著作「うまいもん屋」からの大阪論(NHK出版新書)、「有次と庖丁」(新潮社)、「いっとかなあかん神戸」(140B)。毎日新聞で「濃い味、うす味、街のあじ。」連載中。元「ミーツ・リージョナル」誌編集長。

7月16日(金)

## 日本の洋装化のはじまり ～幕末の日仏交流から見た男子服～

大河ドラマ「青天を衝け」の主人公、渋沢栄一の活躍した幕末と洋装化のはじまりは期を同じくしています。幕府使節団に渋沢も加わり、1867年に開催されたパリ万国博覧会に参加。一行は、花のパリに到達した時には和装姿でしたが、洋裁店エス・ブーシェに行き洋服へと着替えました。ここでは、どのようにして洋装を取り入れるようになったのか、当時の領収書や文献を調べる苦労話を交えてご紹介します。

徳山 孝子 (人間科学部 ファッション・ハウジングデザイン学科 教授)

◆専門領域: 生活文化、服飾史、ファッションデザイン。現在、19世紀の日仏両国関係から見た男子服意匠を研究しています。もう一度地元である神戸の歴史や文化を見直し、阪神間および神戸のファッションを再研究しています。

6月11日(金)

## 持続可能な社会の担い手を育てるためにできること —インクルーシブ教育・特別支援教育の視点から考える—

コロナ禍は、社会不安の高まりが「排除の論理」につながりがちであることを私たちに示しています。一方で多様性を尊重することは持続可能な社会を築くために欠かせないという認識も広がっています。ここでは多様性尊重を基本とするインクルーシブ教育・特別支援教育の視点から、持続可能な社会の担い手を育てるために、私たちにできることを考えてみたいと思います。

谷川 弘治 (教育学部 教育学科 教授)

◆専門領域: 小児がんなど小児慢性疾患のある子どもと家族のウェルビーイングを高める仕組みを、当事者と多職種参加でつくりあげる試みをつづけています。入院生活支援(医療保育、病弱教育)、退院後の学校生活支援と自立支援、多職種研修プログラムの開発などを進めてきました。

6月25日(金)

## 共通語とは異なる方言の“文法”

「方言と共通語の違いは何?」と言われると、例えば「質(しち)」をヒチと言ったりするような「音」の違い、あるいは「捨てる」をホルと言ったりするような「単語」の違いがまっさきに思い浮かびます。しかし、これらだけではなく実は「文法」もけっこう違うんです。この講義では、方言の「文法」に関する興味深いピックをいくつか取り上げます。そこから、これまでとは違った角度で自分のことばを見つめ直してみてください。

田附 敏尚 (文学部 日本語日本文化学科 准教授)

◆専門領域: 方言学。日本語学。青森県出身で、地元の津軽方言の終助詞や感動詞の意味・用法の分析を専門としています。神戸に来てからは神戸のことばにも耳をそばだて、観察・分析しています。また、授業ではここ数年朝来市での方言調査も行っています。

7月9日(金)

## 今日から実践! 食から取り組むSDGs

世界に目をむけると貧困や飢餓、人権、格差社会、地球温暖化など気になる問題が山積みです。SDGs(持続可能な開発目標)とは、人類の共通課題として整理された17の目標です。その理念となる「誰も取り残さない、誰も犠牲にしないという社会」の実現は、すべての人々の活躍の推進につながります。本講座では、目標のひとつである「つくる責任、つかう責任」に焦点をあて、食品の消費や生産の現状を知り、日常生活で実践できることについて考えます。

作田 はるみ (人間科学部 食物栄養学科 准教授)

◆専門領域: 管理栄養士の業務のひとつである「給食経営管理」という科目を担当しています。給食は、継続して喫食することにより健康になることが目的ですが、美味しいだけでなく安全であることが重要です。近年では給食には環境への配慮も必要であると考え、食品ロスにも注目しています。

7月30日(金)

## 臨床心理学から考える 「他者」に出会うということの意味

私たちの日々の暮らしにとって、人間関係は欠くことのできない大切なものであり、同時に厄介なものでもあります。現代社会においては、人間関係のあり方が変化しているとか、人間関係がより難しくなっていると言われることがありますが、それはどうしてでしょうか。私たちの心の健康にとって、人間関係の持つ意味とその難しさはどこから生まれてくるのかについて、一緒に考えてみませんか。

小松 貴弘 (人間科学部 心理学科 教授)

◆専門領域: 専門は臨床心理学、精神分析的心理療法。来談者とカウンセラーとの関係が心理療法の過程をどのように動かしていくのかを中心的な研究テーマとしています。現代社会において他者を理解することや他者と関わり合うとはどういうことなのかを日々考えています。



# 神戸松蔭子育て 支援フリースペース 《まつぼっくり》



## 子どもと保護者

子育て中の親子が安心して集えるスペースを提供します。参加者は同じような年齢のお友達と保護者です。

“まつぼっくり”では子どもが大好きな学生や地域の方々も参加しています。

みなさんと一緒に遊びを通してさまざまなことを体験しましょう。

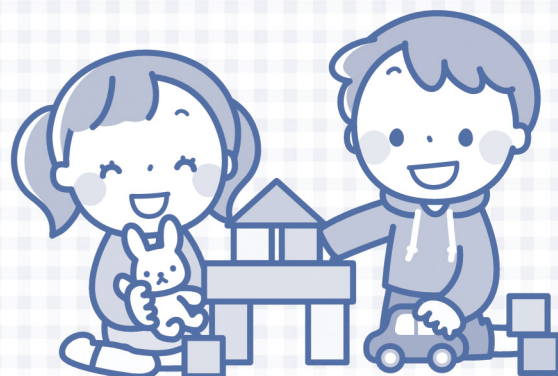
また、経験豊富なスタッフ(保育士・教員・事務職員など)が、楽しい子育てができるようみなさんのそばで応援しています。



### 実施概要

- 期間 : 毎週月・火・水・金・土曜日 週5回
- 場所 : 神戸松蔭女子学院大学 5号館  
コミュニティ・ルーム
- 時間 : 午前(10時~12時)・午後(1時~3時)
- 定員 : 午前・午後各4組程度(完全予約制)
- 対象年齢 : 未就学児と保護者
- 内容 : 親子が互いに話し合い交流を深める場の提供  
(お誕生会、季節の行事とあそび、イクメン倶楽部、グラニー倶楽部、リフレッシュ講座、学生との交流等)
- 利用料金 : 無 料
- 問い合わせ : 〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2-1  
TEL. 078-882-6491(まつぼっくり)  
E-mail: matsubokkuri@mb.shoin.ac.jp

※現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、完全予約制でご利用いただいています。予約方法等は本学ホームページを確認の上、ご利用ください。(変更になる場合があります)



Open Yourself, Open Your Future

# 神戸松蔭女子学院大学

教育学部 教育学科 文学部 英語学科/日本語日本文化学科

人間科学部 心理学科/都市生活学科/食物栄養学科/ファッション・ハウジングデザイン学科

〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2-1

<https://www.shoin.ac.jp/>

神戸松蔭

検索

